

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



4月の銅の概況及び5月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	10,000-11,000ドル	▲
建値	115万円-125万円	▲
為替	107~110円	円高
	(1か月間TTM)	

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると3月の自動車生産台数は前年比+4.5%の82万6,928台。輸出は+3.4%。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると4月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+22.2%の21万353台。

内訳は、乗用車+26.3%、貨物+1.7%、バス-42%となっている。

【住宅着工戸数】

3月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比1.5%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比9.0%の増加となった。

【伸銅品生産】

3月の伸銅品生産量は6万9,610トン、前年同月比+13.5%で3か月連続の増加となった。

自動車と半導体の好調が継続しており、銅条・黄銅条・青銅板条は高水準。黄銅棒は2ヶ月連続の前年比プラスと水準を上げている。銅管はマイナス中が縮小した。

銅条は、前年同月比22.4%増で6カ月連続プラス。

単月の生産としては、2007年以來の多い量となった。引き続き車載向けを含めて半導体の需要が好調である。半導体不足や自動車減産などの話題が上がるが、自動車生産台数の増加スピード以上に、銅条の生産量が増加している。

黄銅棒は、前年同月比が15.2%増加。2ヶ月連続のプラス。タッチレス水洗需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線】

前年比+0.9%の5万9,300 t。

内訳は、国内が+1%、輸出が-4.2%。

【輸出】

電気銅輸出が+11.6%の6万2,378 t。

銅スクラップが+107.2%の5万8,395 t。

【輸入】

電気銅が未発表%の1,188 t。

スクラップが+28.9%の9,946 t。

【見通し】

【自動車】

3月の自動車生産が+4.5%。4月国内販売台数が前年比+22.4%。生産微増は半導体不足によるものと認識、販売は大幅増。

今後生産減が販売数に響くか注視。

【伸銅品生産】

3月の伸銅品生産量は6万9,610トン、前年同月比+13.5%、3か月連続の増加となった。

自動車と半導体の好調が継続しており、銅条・黄銅条・青銅板条は高水準。黄銅棒は2ヶ月連続の前年比プラスと水準を上げている。銅管はマイナス中が縮小した。

【電線】

前年比+0.9%の5万9,300 t

内訳は、国内が+1%、輸出が-4.2%。

国内が久しぶりのプラス輸出のマイナス幅が減少。

内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は、電気銅スクラップ共に外需回復から増加。

・銅輸入は、電気銅スクラップ共に内需回復から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が102万から108万まで急騰したため発生が少なく在庫は気薄。

需要面に関して、半導体不足に伴う自動車需要の減少傾向が言われているが、現状の生産は増加傾向にある。しかし原料高値安定のためメーカーはスポット買いに徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に関しては、4月28日のFOMC声明で雇用の最大化と長期的な2%のインフレ達成を目指しそれを達成するまで金融緩和スタンスを維持すると発表した事、バイデン大統領は7月の独立記念日までに1億回近隣のワクチン接種を提供するという新たな目標を発表したことから米景気は回復傾向が続くのではないかと。

②に関しては、国際銅研究グループ(ICSG)が昨年の中国精製銅輸入は38%増加、440万トン超過と過去最高を記録したこと、2021年1~3月期の中国の経済成長率が18.3%と、四半期の数値公表が始まった1992年以降で最高を記録したことから順調に回復するのではないかと。

これらを踏まえた5月の銅価格は、10,000-11,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は107円~110円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては115万~125万円程度と予測している。

(「4月の銅の概況及び5月の見通し」終わり)

アルミニウム屑・銅・真鍮・ステンレス
各種非鉄金属屑

株式会社原田商店

代表取締役 原田 靖章

〒547-0002 大阪市平野区加美東6-14-30

TEL 06-6793-8128 FAX 06-6793-8128